

大阪・水走遺跡

みずはい



- 1 所在地 大阪府東大阪市水走・今米・川中・中新開
- 2 調査期間 一九八四年（昭59）一月～一九八五年二月（第五次、七次）
- 3 発掘機関 大阪府教育委員会
- 4 調査担当者 渡辺昌宏・禰宜田佳男
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代晚期～近代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

水走遺跡は、生駒山西麓扇状地の西に広がる沖積地に営まれた遺跡で、現標高約二～四mである。東側では、鬼虎川遺跡と接している。鉄道建設に伴い新たに発見され、発掘調査を実施した。その結果、時代により多寡はあるものの、縄文時代晚期から近代まで続く複合遺跡であることが判明した。

中世においては、遺跡の西側で自然河川（旧大和川の支流吉田川にあたる）を、その東岸では、掘立柱建物・溝・土壙・土壙墓・貝塚等の遺構と大量の遺物を検出した。これらは、「水走文書」により、時期的にも地理的にも、この周辺を支配したとされる水走氏と関連があると考えられている（財東大阪市文化財協会の調査成果による）。一方西岸は、鎌倉時代まで吉田川の氾濫原の状況を呈し、室町時代後半になって堤防を築き流れを固定化したようである。遺構・遺物ともに東岸に比べると少ない。

木簡は、この西岸の遺物包含層より数片の瓦器片と共に出土した。なお、本遺跡での木簡の出土は二例目である。

8 木簡の釦文・内容

(1) 「永徳三年五月（花押）」

185×(31)×4 081

墨は消え、文字の部分が浮き上がっている。永徳三年は一二八三年にあたる。花押が誰のものであるかは、判らない。

9 関係文献

大阪府教育委員会『水走遺跡発掘調査概報』（一九八五年）

（渡辺昌宏・禰宜田佳男）

